チャレンジ！！オープンガバナンス 2022 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名（注１）	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	-（事務局用）	兵庫県三田市の人口増加を目指すアイデア	兵庫県　三田市
チームがつけたアイデア名（公開）（注２）	三田市の住みやすさ、人口増加計画		

（注１）地域課題名は、COG2022 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注２）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

１．応募者情報　赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	岸上研究室　三田プロジェクト	
チーム属性（公開）	１．市民、２．市民／学生混成、３．学生	３．学生
メンバー数（公開）	３名	
代表者（公開）	味地泉実	
メンバー（公開）	井上　七美、星野　有香	

【注意書き】※　必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

１．　応募の際は、ファイル名を COG2022_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2022 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2022@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

２．　アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

３．　公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示ー非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja、および、https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja　をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。https://creativecommons.jp/licenses/）

４．　上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）

５．　この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

＜知的所有権等の取扱い＞

６．「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。

７．「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2．の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧下さい。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○

2．アイデアの説明（公開）　　(1) アイデアの内容（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。
必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたくなる**、そしてその結果として、課題が解決される、そんな**わくわく感のあるアイデア**を期待します。**２ページ以内**でご記入ください。

＜応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください＞

三田市の住みやすさ、人口減少、少子高齢化対策を進めるための解決策
三田市の現状
・日本全体の少子高齢化の影響もあり特に若い世代の人口が減少している。
・1980 年代からニュータウンの開発が始まり、現在三田市には 4 つのニュータウンが存在しているが、開発当時から 40 年ほど経過しているため建物の老朽化が進むなどオールドタウン化しつつある。
・別の町に引っ越し帰ってくる人が少ないことや新しく引っ越してくる人が少ないこと。
・ニュータウンができたころの若い世代の年齢層が上がってきている（高齢化の原因の一つ）が次の世代の人口が少ない・
「関係人口増加から定住人口増加につなげるための政策」

＜この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます＞ ＜アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。＞
＜よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です＞

＜目標＞これから活躍する若い世代に視点を置き、子育て支援に力を入れる政策

「三田に住みたい！三田で子育てしたいを目指す」

子育て世代に魅力的な政策を企画、実施し続けることによって三田市が住みやすい町、移住したいまちとしての知名度を獲得し、人口の増加を目指す。

「三田市の人口を増加させ、さらに住みやすい町にするための政策案」

「子育てに力を入れる三田市」
・子供の医療費無料
・二子目以上の保育料無料
・子育て用品の配布
・社内に保育施設、託児所を設置
・三世帯子育て保障

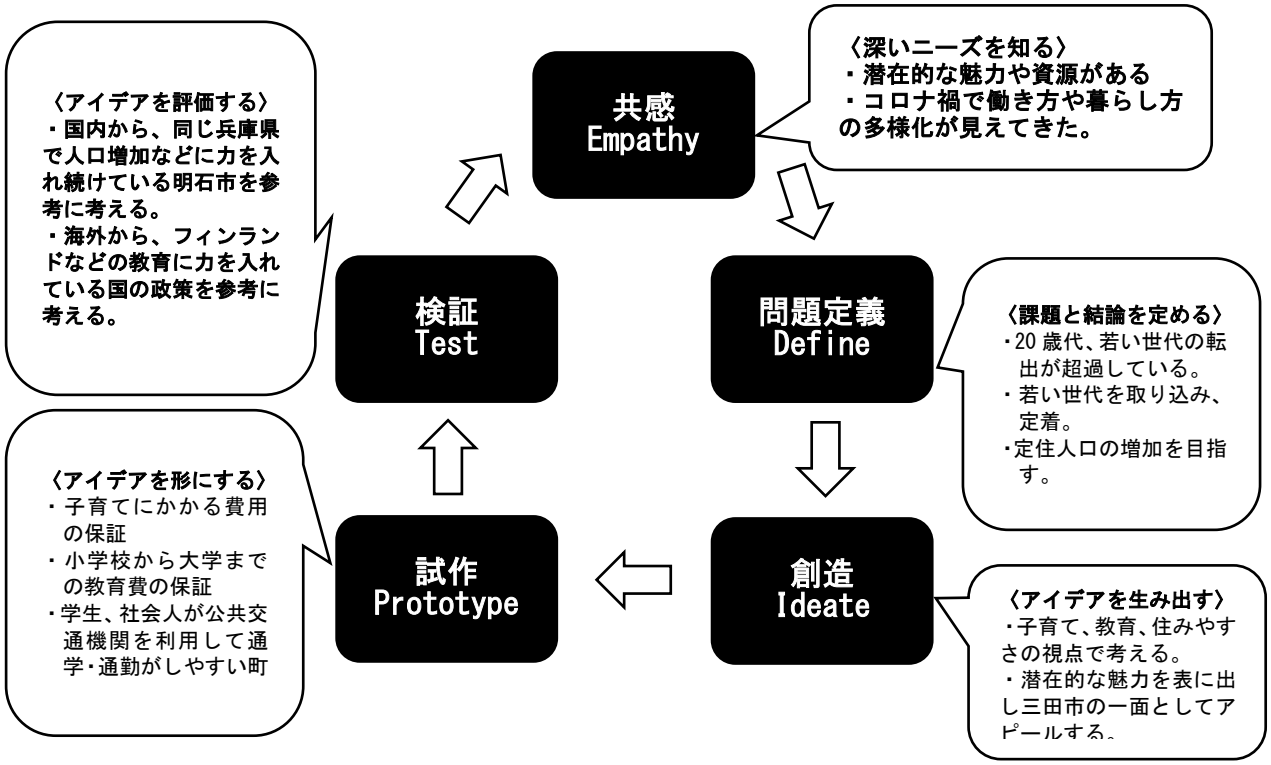
「教育に力を入れる三田市」
・高校までの学費の全額負担
・大学の学費全額無償または半額負担
・三田市に住み電車を使って通学している学生の電車の定期券無料化

2．アイデアの説明（公開）　(1) アイデアの内容（公開）

「住みやすさに力を入れる三田市」

・JR,神戸電鉄を利用することで、京阪神や大阪などの主要都市に 1 時間ほどで行くことができる。
・ニュータウンなど人口が集中している場所が駅などがある南側で、北側には多くの自然がある。
・多くの自然を生かした公園や観光地を作り広めていく。
・三田市に住み京阪神などに通勤している人の定期券半額無償など
・工芸品「三田青磁」を広めていく

【デザイン思考のプロセス】



2．アイデアの説明（公開）　　(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明**してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

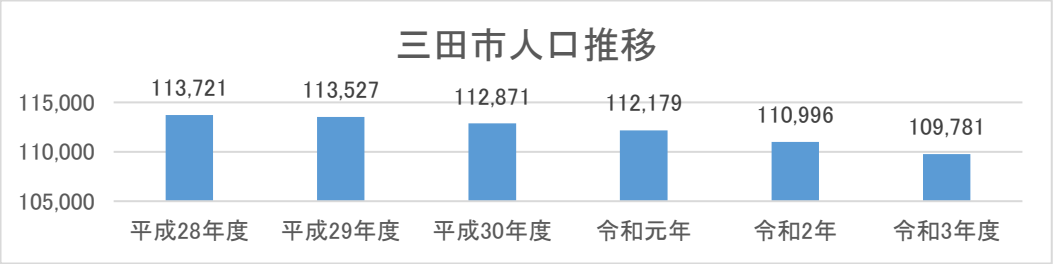
＜このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます＞

＜先の（１）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するというアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます＞

・アイデアを提案する理由について

〈三田市の現状〉

・三田市の人口は平成 28 年度から現在まで毎年減少し続けている。平成 28 年度から令和 3 年度を比べると約 4,000 人減少していることになる。



三田市統計書『令和 3 年版三田市統計書』
r3nennbannsandasitoukeisuo.pdf

・常住人口について、平成 2 年度から平成 22 年度までは人口が増加しているが、平成 22 年度から平成 27 年度にかけて 1525 人減少していることがわかる。昼間人口・流入人口・流出人口は増加しているため、外から三田市に仕事や学校に来る人口が増えたことや、三田市に常住している人が昼間三田市外に仕事や学校で出ていることがわかる。

1.2 常住人口、流出・流入人口、昼間人口、昼夜間人口比率の推移

（各年10月1日現在）

年　次	常住人口	昼間人口	昼夜間人口比率(%)	流入人口	流出人口	流出超過
平成2年	64,560	63,006	97.6	8,451	10,005	1,554
7	96,244	85,793	89.0	15,310	25,761	10,451
12	111,622	98,382	88.1	16,963	30,203	13,240
17	113,256	102,134	90.2	18,940	30,062	11,122
22	114,216	103,098	90.3	19,403	30,521	11,118
27	112,691	104,106	92.4	21,442	30,027	8,585

資料：国勢調査
注）年齢不詳を除く

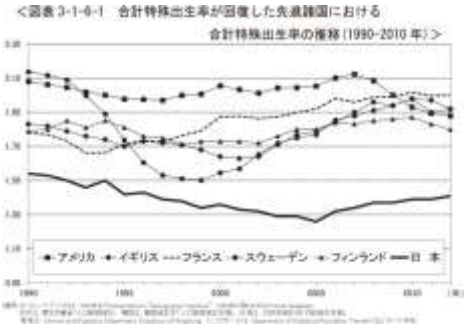
r3nennbannsandasitoukeisuo.pdf

2020 年 10 月　年齢別人口構成

2．アイデアの説明（公開）　　**(2) アイデアの理由（公開）**

1980 年代後半～1990 年代前半にニュータウンに住宅を購入した市民の層（NT 第一世代）が厚く、その子ども世代は転出超過であるため、少子高齢化が一気に進む。今後急速に高齢化が進むことが予想されているため子供世代の転出方を少しでも減らし、また人口増加を目指すためにどのような取り組みをしていく必要があるのかを考える必要がある。

・世界の政策対応により少子化を克服し、人口置換水準近傍まで合計特殊出生率を回復させている例
・フランス…家族給付の水準が全体的に手厚い上に、特に、第 3 子以上の子をもつ家族に有利になっている。出産・子育てと就労に関して幅広い選択ができるような環境整備、すなわち「両立支援」を強める方向で進められている。
・スウェーデン…40 年近くに渡り経済的支援や「両立支援」施策を進めてきた。多子加算を適用した児童手当制度、両親保険に代表される充実した育児休業制度、開放型就学前学校等の多様かつ柔軟な保育サービスを展開。
・フィンランド…ネウボラ（妊娠期から就学前までの切れ目のない子育て支援制度）を市町村が主体で実施し、子育てにおける心身や経済の負担軽減に努めている。
・アメリカ…税制の所得控除を除けば、児童手当制度や出産休暇・育児休暇の制度や公的な保育サービスがないながらも、民間の保育サービスが発達しており、また、日本などで特徴的な固定的な雇用制度に対し子育て後の再雇用や子育て前後のキャリアの継続が容易であること、男性の家事参加が比較的高いといった社会経済的な環境を持つ。
https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/sentaku/s3_1_6.html



　日本でも、フィンランドのネウボラを参考に各地方自治体が独自のネウボラを実施している地域がある。
東京都では世田谷区をはじめ、渋谷区（渋谷区子育てネウボラ）、文京区（文京区版ネウボラ事業）、板橋区（いたばし版ネウボラ事業）、豊島区（ゆりかご・としま事業）、小平市（小平市子育て世代包括支援センター事業「こだっこ」）など、そのほかの都道府県でも埼玉県和光市（わこう版ネウボラ）、広島県全域（ひろしま版ネウボラ）など、さまざまな自治体で取り組みが進められています。
話題の子育て支援制度「ネウボラ」を知っていますか？　東京都・世田谷区の取り組みを取材（aruhi-corp.co.jp）

〈アイデアの効果〉
「子育てに力を入れる三田市」「教育に力を入れる三田市」「住みやすさに力を入れる三田市」として政策を考え転出人口を減らし、移住者を増加、定住人口増加を図る。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法**、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1．実現する主体

2．実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法

3．実現にいたる時間軸を含むプロセス

「子育てに力を入れる三田市」

・子供の医療費無料…金銭面を考えずに子供の健康を一番に考えることができる。

・二子目以上の保育料無料…二人以上子どもを育てたいと考えている家庭があれば三田市に住むことで保育料が免除されるため子育てしやすい町として知られるようになる。

・子育て用品の配布…粉ミルクやおむつなどの幼児用の日用品を届ける

・給食費無料…年間約約５万円ほどかかる給食費を負担することで少しでも家庭の力になることができる。

・社内に保育施設、託児所を設置…共働きの家庭で保育園に預けてから出勤するために朝から家事に追われている親が少しでも朝の時間にゆとりが持てるように助けることができる。また、社内ということでもし子供が熱を出したなど、何かあったときにすぐに駆け付けることができるため、近くにいるということで安心して仕事をすることができる。さらに、保育園が見つからず待機児童になったときに仕事をしたくてもできない親も勤め先に保育施設があることで預けることができるため仕事に復帰することができる。

・三世帯子育て保障…三世代で暮らしている家庭への保証。祖父母と暮らすことで家庭のことを手伝ってくれるなど親の負担を軽減できる。また、祖父母の代だけで暮らしていて、亡くなったあと親世代が住んでいるため空き家になってしまうことが無くなる。子供が家にいると明るくなるので賑やかに暮らすことができる

「すでに県内で実践し人口増加につながっている地域」

明石市「子どもを核としたまちづくり」・子供の医療費無料化・第２子以降の保育料の完全無料化・0 歳児の見守り訪問「おむつ定期便」・中学校の給食費が無償・公共施設の入場料無料化

子育てするならやっぱり明石／明石市（akashi.lg.jp）

子育て層の負担を減らすと、今後の教育費のために貯金をする額が減るため他のことにお金を使う機会が増える。お店で買い物をしたり外食の機会が増えたりすることで地元の商店が潤い、経済の循環が活発に行われるようになる。

2．アイデアの説明（公開）　(2) アイデアの理由（公開）

「教育に力を入れる三田市」

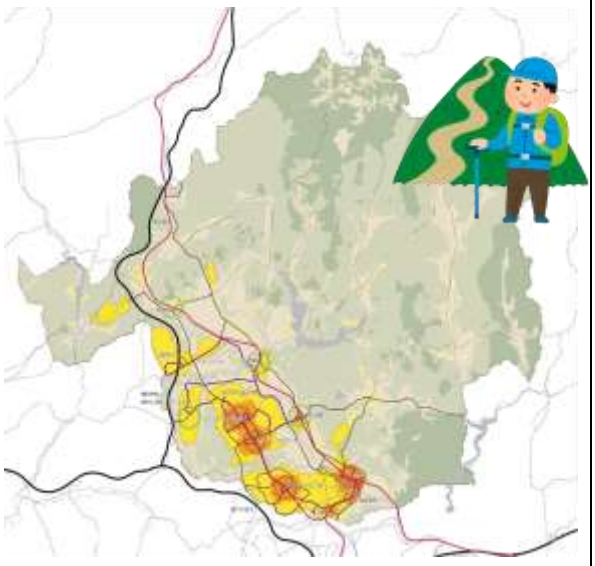
・高校までの学費の全額負担…大学費の保証ができない場合の費用に回すことができる
・大学の学費の全額または半額負担…兄弟姉妹もいて大学に通う都市が重なってしまうと家計は苦しくなってしまうが、保証があることで金銭面を考えることなく自分が志望する大学を受験することができる。
・三田市に住み電車を使って通学している学生の電車の定期券無料化…対象は三田市に在住していて三田市内、市街に通学する学生。年間を通してかかる交通費を負担することは家庭の負担を減らすことができる。

学費を負担をする目的

大学の学費は費用がとても必要になってくるため、家庭の金銭面を考えて進学を諦めてしまう学生、費用を抑えるために行きたい大学に行かずに別の進学先に変更しないといけない学生など、子どもがこれから学ぶことをお金のせいで妨げてしまわないために学費を負担する必要がある。また保証をするという事はこれからの社会を創る世代に投資するという目的になる。

「住みやすさに力を入れる三田市」

・ニュータウンや路線、人口が集中しているのは南側、北側には自然が集中しているので何か活用ができないのか。自然を生かした公園やハイキングコースなどを作り、子どもが自然と触れ合うことができる、自然を感じながら散歩をしたり、ジョギングなど運動をしたり様々な使い方ができる安全な場所を増やす。



・新たな観光地として広めていく
・JR や神戸電鉄を利用することで、京阪神や大阪まで 1 時間ほどで行くことができるため、三田市から京阪神、大阪に通勤するとその分の定期を半分負担し、交通費が安くなるということで三田市に定住する人口が増加することを目指す。
三田市の文化、工芸品「三田青磁」を広める
・三田市の特産品として認定を受ける
・「三田市といえばコレ」といったものがあれば子どもが自信をもって自分の町を紹介することができるようになる。

〈政策についてどのように発信していくか〉

・三田市のホームページ、駅の電光掲示板やポスターにして掲示する。三田市内の駅だと市街の人の目に付きづらいと思われるため、市外の駅にも掲示すること。
・三田市にある会社、企業など外から働きに来る人がいる環境にポスターやチラシで掲示、宣伝する。
・学生に知ってもらうために「デザインコンテスト」を開催するなど認知度を上げる。

〈まとめ〉

・経済面を助けてくれるということはどの家庭にも魅力的であると考える。今回たくさんのアイデア、保証案を出しているがすべてを同時にすることはできない。ここから一つずつ取り組むことができれば三田市が子育て・教育に力を入れていて住みやすい町として幅広く認知され、人口も少しずつ増加していくのではないかと思われる。